

キヤノンマーケティングジャパングループ 2018年度 決算説明

2019年1月30日

キヤノンマーケティングジャパン株式会社

取締役専務執行役員 松阪 喜幸

Canon

キヤノンマーケティングジャパン株式会社

■本資料では、億円単位未満の端数は四捨五入により表示しております。

■本資料で記述されている業績予想並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。

決算のポイント 第4四半期(10月~12月)

Canon

売上高 **1,737億円** (**前年比△23億円 / △1%**)

✓ITソリューションが順調に推移したエンタープライズ・エリアで増収となったものの、コンシューマ・プロフェッショナルが減収となり、売上は減少。

営業利益 **130億円** (**前年比+10億円 / +9%**)

✓荒利率の改善および全社的な販管費の削減により、増益。

**親会社株主に帰属する
四半期純利益** **93億円** (**前年比+11億円 / +14%**)

業績サマリー 第4四半期(10~12月)実績

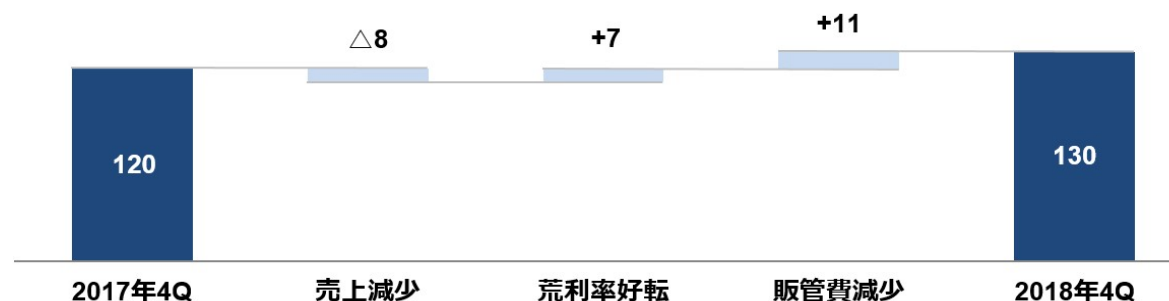


■ 業績サマリー

(単位：億円)

	2017年 4Q	2018年 4Q	前年同期比較	
			金額	率
売上高	1,759	1,737	△23	△1%
売上総利益	(34.8%) 612	(35.2%) 611	(+0.4%) △1	△0%
営業利益	(6.8%) 120	(7.5%) 130	(+0.7%) +10	+9%
経常利益	(6.9%) 122	(7.6%) 132	(+0.7%) +11	+9%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	(4.6%) 82	(5.3%) 93	(+0.7%) +11	+14%

■ 営業利益分析



セグメント概要 第4四半期(10~12月)実績



(単位：億円)

	2017年 4Q		2018年 4Q		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
コンシューマ	570	70	539	70	△31	△0
エンタープライズ	465	23	486	29	+21	+6
エリア	645	34	651	38	+6	+4
プロフェッショナル	141	△7	124	△3	△17	+4
その他	△61	1	△64	△2	△2	△3
合 計	1,759	120	1,737	130	△23	+10

※1.「その他」には、セグメント間内部売上高やシェアードサービス事業、各セグメントに配分していない全社費用等が含まれております。

※2.2018年3Qより、「エンタープライズ」に含めておりましたキヤノンビズアテンダ(株)の報告セグメントを「その他」に変更しております。

これに伴い、2017年実績及び2018年1Q-2Q実績の組替を行っております。

業績サマリー 年間累計(1~12月)実績

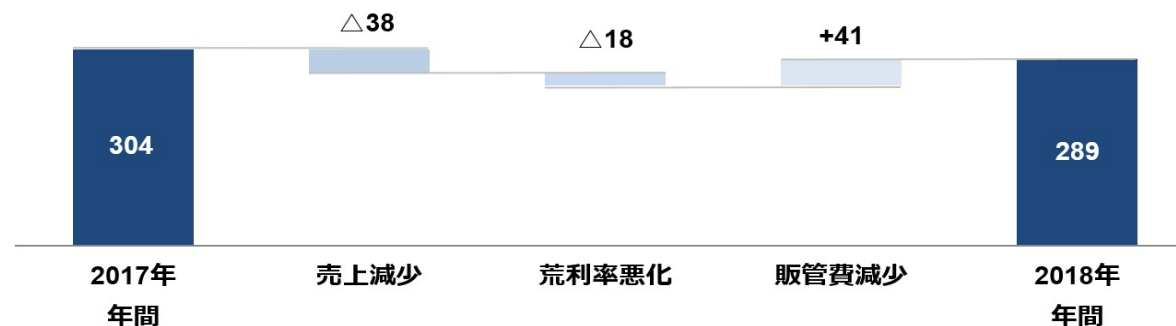


■ 業績サマリー

(単位：億円)

	2017年 年間	2018年 年間	前年同期比較	
			金額	率
売上高	6,322	6,216	△106	△2%
売上総利益	(35.4%) 2,238	(35.1%) 2,182	(△0.3%) △56	△3%
営業利益	(4.8%) 304	(4.7%) 289	(△0.2%) △15	△5%
経常利益	(5.0%) 315	(4.9%) 305	(△0.1%) △10	△3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	(3.3%) 207	(3.4%) 208	(+0.1%) +1	+1%

■ 営業利益分析



セグメント概要 年間累計(1~12月)実績



(単位：億円)

	2017年 年間		2018年 年間		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
コンシューマ	1,663	127	1,502	73	△160	△53
エンタープライズ	1,776	77	1,877	96	+101	+19
エリア	2,579	114	2,559	130	△20	+16
プロフェッショナル	541	△19	524	△9	△17	+9
その他	△238	4	△247	△1	△9	△5
合 計	6,322	304	6,216	289	△106	△15

※1.「その他」には、セグメント間内部売上高やシェアードサービス事業、各セグメントに配分していない全社費用等が含まれております。

※2.2018年3Qより、「エンタープライズ」に含めておりましたキヤノンビズアテンダ(株)の報告セグメントを「その他」に変更しております。

これに伴い、2017年実績及び2018年1Q-2Q実績の組替を行っております。

売上高 539億円 (前年比 $\Delta 31$ 億円 / $\Delta 5\%$)

▶ ミラーレスカメラは順調に推移したものの、レンズ交換式デジタルカメラ全体では減少。
インクジェットプリンターも低調に推移したため、セグメント全体で減収。

営業利益 70億円 (前年比 $\Delta 0$ 億円 / $\Delta 0\%$)

▶ 高単価商品への注力や販管費の削減に努めた結果、ほぼ横ばい。

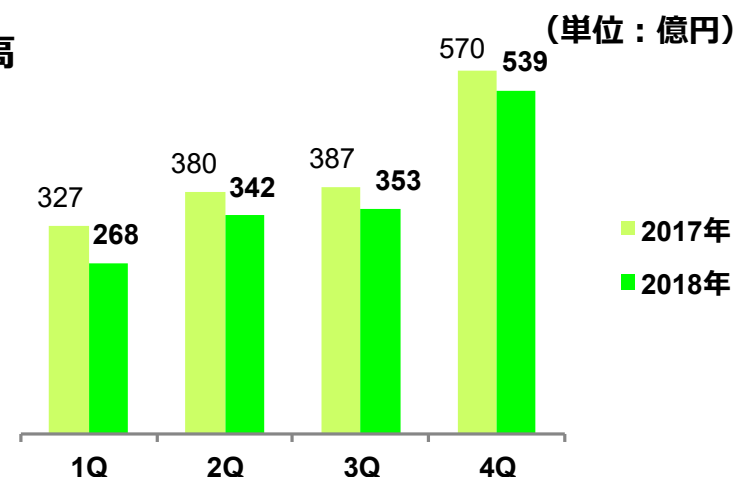
■ 対前年増減

	2017年 年間	2018年 年間	増減
売上高	1,663	1,502	$\Delta 160$
営業利益	127	73	$\Delta 53$

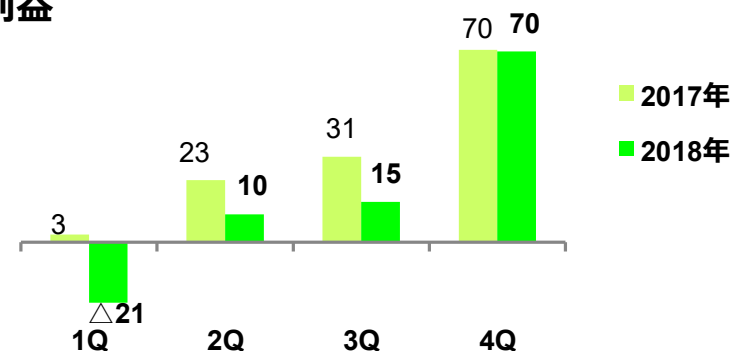
■ 売上高 対前年同期増減

	1Q	2Q	3Q	4Q	年間
2018年	$\Delta 18\%$	$\Delta 10\%$	$\Delta 9\%$	$\Delta 5\%$	$\Delta 10\%$

■ 売上高



■ 営業利益



売上高 486億円 (前年比 +21億円 / +5%)

▶ 金融業や製造業向けを中心に業種別ソリューションビジネスが伸長。SIビジネスやデータセンタービジネスも引き続き堅調に推移し、増収。

営業利益 29億円 (前年比 +6億円 / +27%)

▶ 増収による荒利の増加や、販管費の削減により、増益。

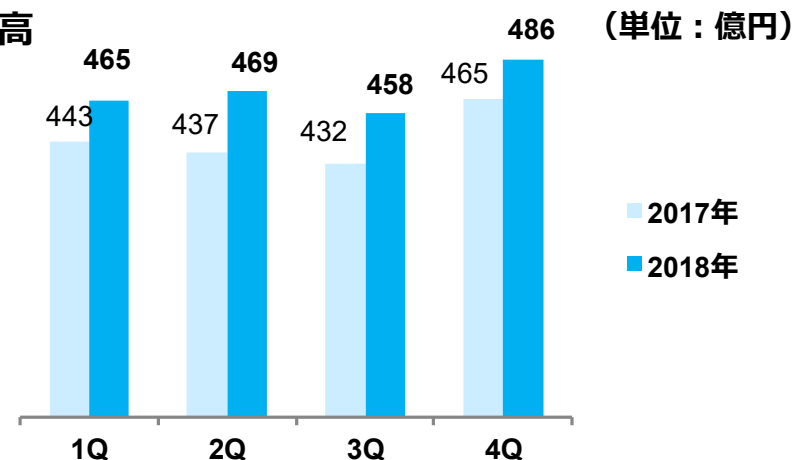
■ 対前年増減

	2017年 年間	2018年 年間	増減
売上高	1,776	1,877	+101
営業利益	77	96	+19

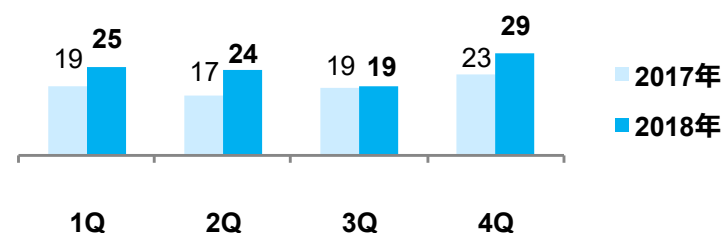
■ 売上高 対前年同期増減

	1Q	2Q	3Q	4Q	年間
2018年	+5%	+7%	+6%	+5%	+6%

■ 売上高



■ 営業利益



売上高 651億円（前年比 +6億円 / +1%）

▶ 主要ハードウェアが低調に推移したものの、引き続きITソリューションが増加し、増収。

営業利益 38億円（前年比 +4億円 / +11%）

▶ 売上の増加による荒利の増加や、販管費の削減により、増益。

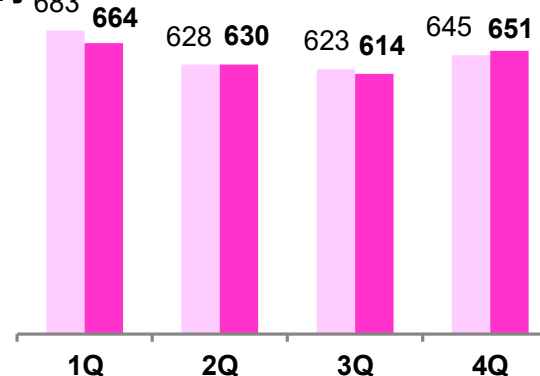
■ 対前年増減

	2017年 年間	2018年 年間	増減
売上高	2,579	2,559	△20
営業利益	114	130	+16

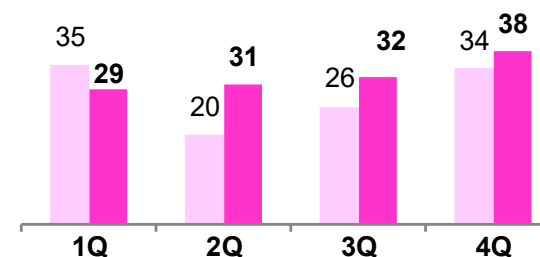
■ 売上高 対前年同期増減

	1Q	2Q	3Q	4Q	年間
2018年	△3%	+0%	△1%	+1%	△1%

■ 売上高



■ 営業利益



売上高 124億円 (前年比 $\Delta 17$ 億円 / $\Delta 12\%$)

▶ プロダクションプリンティングや産業機器が低調に推移したこと等により、減収。

営業利益 $\Delta 3$ 億円 (前年比 $+4$ 億円 / $-$ %)

▶ 荒利率の改善や販管費の削減等により、改善。

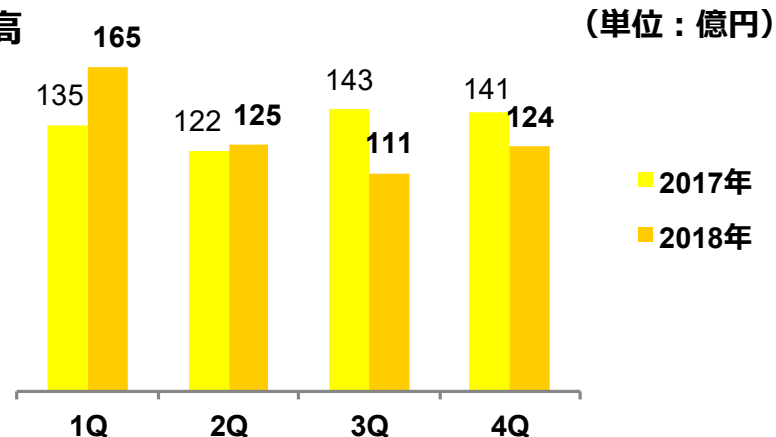
■ 対前年増減

	2017年 年間	2018年 年間	増減
売上高	541	524	$\Delta 17$
営業利益	$\Delta 19$	$\Delta 9$	$+9$

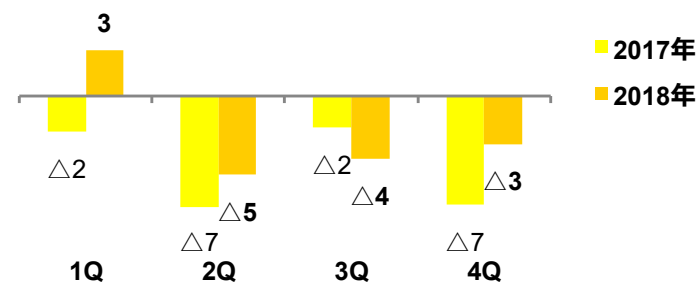
■ 売上高 対前年同期増減

	1Q	2Q	3Q	4Q	年間
2018年	$+22\%$	$+3\%$	$\Delta 23\%$	$\Delta 12\%$	$\Delta 3\%$

■ 売上高



■ 営業利益



セグメント情報 プロフェッショナルセグメント



■売上高対前年増減

	2018年
	4Q (10-12月) 実績
プロダクションプリンティング	△15%
産業機器	△38%
ヘルスケア	+10%
映像ソリューション	+0%

■プロダクションプリンティング

高速連帳プリンターおよび高速カットシートプリンターの減少により、減収。

■産業機器

半導体分野で主要顧客への設置が落ち着いたことや、非半導体分野で海外取引先との販売代理店契約が終了したこと等により、減収。

■ヘルスケア

医療情報システム等が伸長したことにより、増収。

■映像ソリューション

ネットワークカメラ事業は増加したものの、放送事業者向け事業が減少となり、ほぼ横ばい。

グループITソリューション売上



(単位：億円)

	2017年 4Q	2018年 4Q	増減	
			金額	率
エンタープライズ	289	311	+22	+8%
エリア	128	145	+17	+13%
その他	58	65	+7	+12%
合計	475	521	+46	+10%

	2017年 年間	2018年 年間	増減	
			金額	率
エンタープライズ	1,085	1,190	+104	+10%
エリア	548	581	+33	+6%
その他	187	206	+19	+10%
合計	1,820	1,977	+157	+9%

【参考】グループITセキュリティ売上高

	対前年 増減率	
	4Q	年間
グループITセキュリティ	+9%	+2%

業績予想サマリー



(単位：億円)

	2019年 年間 (予想)	【参考】 2018年 年間 (実績)	前年比較	
			金額	率
売上高	6,220	6,216	+4	+0%
営業利益	(4.7%) 295	(4.7%) 289	(+0.1%) +6	+2%
経常利益	(4.9%) 307	(4.9%) 305	(+0.0%) +2	+1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	(3.4%) 209	(3.4%) 208	(+0.0%) +1	+0%

2018年実績の組替影響比較

(単位：億円)

	2018年 年間 組替前		2018年 年間 組替後		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
コンシューマ	1,502	73	1,502	73	-	+0
エンタープライズ	1,877	96	1,882	87	+5	△9
エリア	2,559	130	2,576	121	+17	△9
プロフェッショナル	524	△9	464	9	△60	+18
その他	△247	△1	△208	△1	+39	+0
合 計	6,216	289	6,216	289	-	-

※1.「その他」には、セグメント間内部売上高やシェアードサービス事業、各セグメントに配分していない全社費用等が含まれております。

※2.2018年3Qより、「エンタープライズ」に含めておりましたキャノンビズアテンダ(株)の報告セグメントを「その他」に変更しております。

これに伴い、2018年1Q-2Q実績の組替を行っております。

※3.2019年1Qより「プロフェッショナル」セグメントのサブセグメントであった「映像ソリューション」を「エンタープライズ」と「エリア」セグメントに移管しました。

また、グループ内に分散していたセキュリティビジネスをキャノンマーケティングジャパン単体に集約した結果、セグメント間取引の金額が変更となっております。

業績予想 セグメント概要 前年比較



(単位：億円)

	2018年 年間 (実績)		2019年 年間 (予想)		前年比較		
	売上	営業 利益	売上	営業 利益	売上 金額	率	営業 利益
コンシューマ	1,502	73	1,388	69	△114	△8%	△4
エンタープライズ	1,882	87	1,900	97	+18	+1%	+10
エリア	2,576	121	2,629	121	+53	+2%	+0
プロフェッショナル	464	9	487	11	+23	+5%	+2
その他	△208	△1	△184	△3	+24	-%	△2
合計	6,216	289	6,220	295	+4	+0%	+6

※1.「その他」には、セグメント間内部売上高やシェアードサービス事業、各セグメントに配分していない全社費用等が含まれております。

※2.2018年3Qより、「エンタープライズ」に含めておりましたキヤノンビズアテンダ(株)の報告セグメントを「その他」に変更しております。

これに伴い、2018年1Q-2Q実績の組替を行っております。

※3.2019年1Qより「プロフェッショナル」セグメントのサブセグメントであった「映像ソリューション」を「エンタープライズ」と「エリア」セグメントに移管しました。

また、グループ内に分散していたセキュリティビジネスをキヤノンマーケティングジャパン単体に集約した結果、セグメント間取引の金額が変更となっております。

コンシューマ

- 売上は、ミラーレスカメラの更なる拡販に努めるものの、デジタル一眼レフカメラやインクジェットプリンター等の減少により、対前年マイナス8%の1,388億円を見込む。
- 営業利益は、高付加価値製品への注力、販管費の削減等を目指すものの、対前年4億円減の69億円を見込む。

エンタープライズ

- 売上は、主要なハードウェア等で減少となるものの、金融業や製造業向けソリューションや、SI・データセンターサービス・セキュリティ等のビジネスが引き続き増加するなどし、対前年プラス1%の1,900億円を見込む。
- 営業利益は、高付加価値ソリューションの提供や、ITソリューションビジネスにおけるストック比率を高めること等により荒利が増加し、対前年10億円増の97億円を見込みます。

エリア

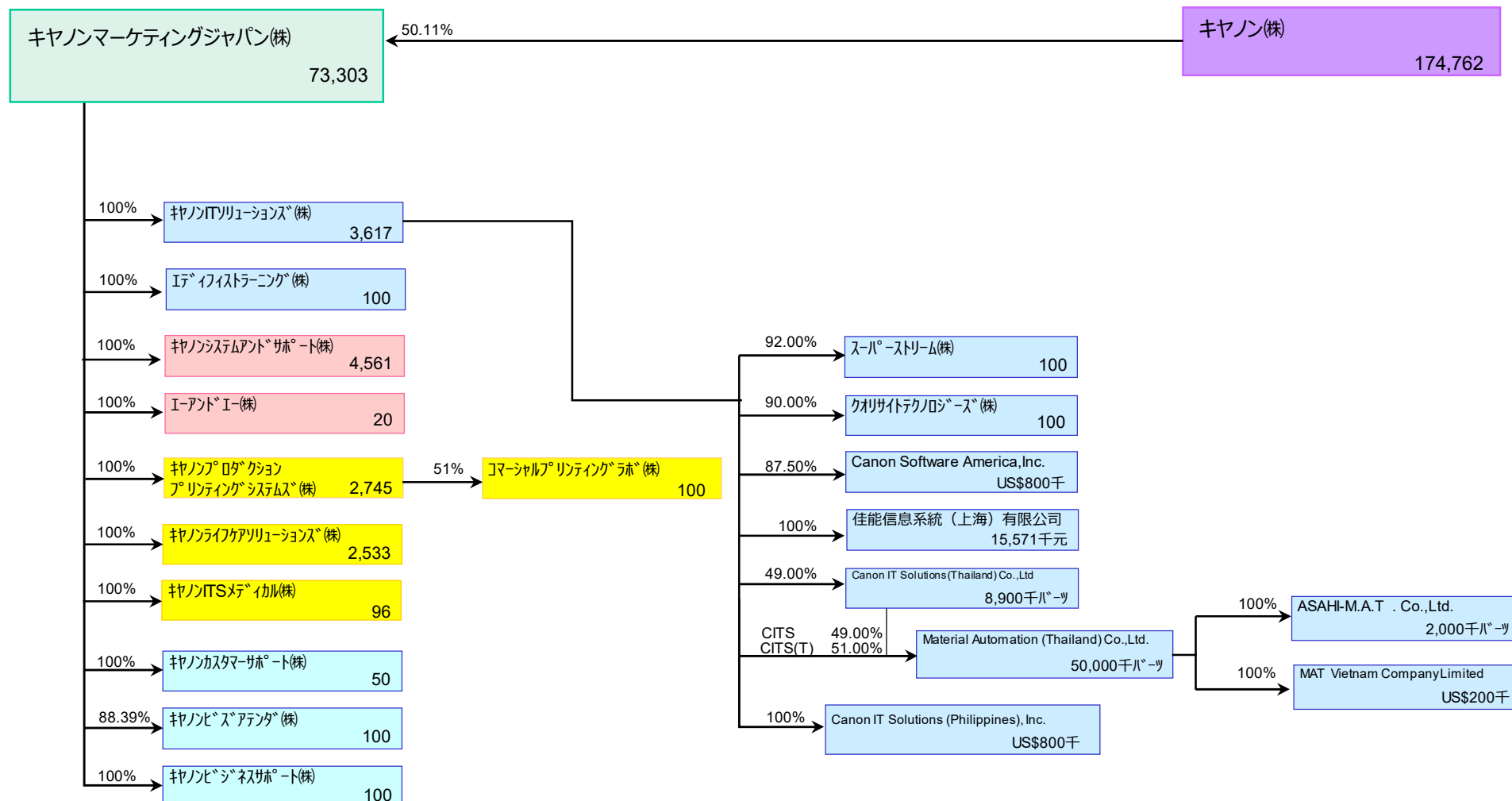
- 売上は、オフィスMFPの新製品の発売による販売増や、ITソリューションの売上の拡大等により、対前年プラス2%の2,629億円を見込む。
- 営業利益は、IT保守等の収益性の高いビジネスが増加するものの、前年と比べ稼働日が減少することにもない、消耗品ビジネスに影響が出る見込み。また、MFPの出荷の増加にともなう費用の増加などもあり、営業利益は対前年並みの121億円を見込む。

プロフェッショナル

- プロダクションプリンティング：カラーインクジェット連帳プリンター等の拡販に注力し、増収を見込む。
- 産業機器：半導体関連で顧客の生産調整に伴う設備投資延期等があるものの、微増収を見込む。
- ヘルスケア：新製品の拡販や大型案件獲得に注力し、増収を見込む。

參考資料

【参考】関係会社出資関係図



2018.12.31 現在

【参考】主要関係会社実績 第4四半期(10~12月)実績



(単位：億円)

		2017年 4Q		2018年 4Q		増減		
		金額	率	金額	率	金額	率	
エンタープライズ								
キヤノンITソリューションズ	売上高	226.9		233.4		+6.5	+3%	
	営業利益	14.7	(6.5%)	23.3	(10.0%)	+8.7	(+3.5%)	
エリア								
キヤノンシステムアンドサポート	売上高	287.9		291.6		+3.8	+1%	
	営業利益	10.6	(3.7%)	11.7	(4.0%)	+1.1	(+0.3%)	
プロフェッショナル								
キヤノンプロダクションプリンティングシステムズ	売上高	40.6		34.4		△6.1	△15%	
	営業利益	△0.7	(-)	0.6	(1.8%)	+1.3	(-)	
キヤノンライフケアソリューションズ	売上高	27.7		27.9		+0.2	+1%	
	営業利益	0.7	(2.5%)	1.1	(3.8%)	+0.4	(+1.4%)	

【参考】主要関係会社実績 年間累計(1~12月)実績



(単位：億円)

		2017年 年間		2018年 年間		増減		率
						金額		
エンタープライズ								
キヤノンITソリューションズ	売上高	847.0		895.7		+48.6		+6%
	営業利益	54.3	(6.4%)	74.0	(8.3%)	+19.7	(+1.9%)	
エリア								
キヤノンシステムアンドサポート	売上高	1,189.7		1,173.7		△16.0		△1%
	営業利益	34.0	(2.9%)	38.5	(3.3%)	+4.5	(+0.4%)	
プロフェッショナル								
キヤノンプロダクションプリンティングシステムズ	売上高	137.3		126.9		△10.4		△8%
	営業利益	△4.4	(-)	△2.9	(-)	+1.5	(-)	
キヤノンライフケアソリューションズ	売上高	136.7		113.8		△22.9		△17%
	営業利益	2.9	(2.1%)	2.3	(2.0%)	△0.6	(△0.1%)	

【参考】販管費の内訳

Canon

(単位：億円)

	2017年		2018年		増減	
	4Q	年間	4Q	年間	4Q	年間
広告宣伝費	24	85	26	84	+2	△0
販売促進費	18	52	12	44	△6	△8
保証費	13	52	12	48	△1	△4
その他直接費	52	204	51	195	△1	△8
人件費	306	1,231	306	1,221	△1	△10
減価償却費	4	19	3	13	△1	△6
その他販売費	75	292	71	287	△4	△5
合計	492	1,934	481	1,892	△11	△41

【参考】営業外収支の内訳



(単位：億円)

■ 営業外収益

	2017年		2018年		増減	
	4Q	年間	4Q	年間	4Q	年間
受取利息	0	2	0	2	+0	+0
受取配当金	0	1	0	2	+0	+0
受取保険金	0	5	0	5	△0	△0
投資事業組合運用益	-	-	0	5	+0	+5
その他	1	5	1	4	△0	△1
合計	2	13	2	18	+0	+5

■ 営業外費用

	2017年		2018年		増減	
	4Q	年間	4Q	年間	4Q	年間
支払利息	0	0	0	0	+0	+0
為替差損	△0	0	-	-	+0	△0
その他	0	2	0	2	+0	△0
合計	0	2	0	2	+0	△0

【参考】特別損益の内訳

Canon

(単位：億円)

■ 特別利益

	2017年		2018年		増減	
	4Q	年間	4Q	年間	4Q	年間
固定資産売却益	0	9	0	1	Δ0	Δ8
投資有価証券売却益	-	5	-	5	-	Δ1
関係会社株式売却益	-	-	-	2	-	+2
その他	-	1	-	-	-	Δ1
合計	0	15	0	8	Δ0	Δ7

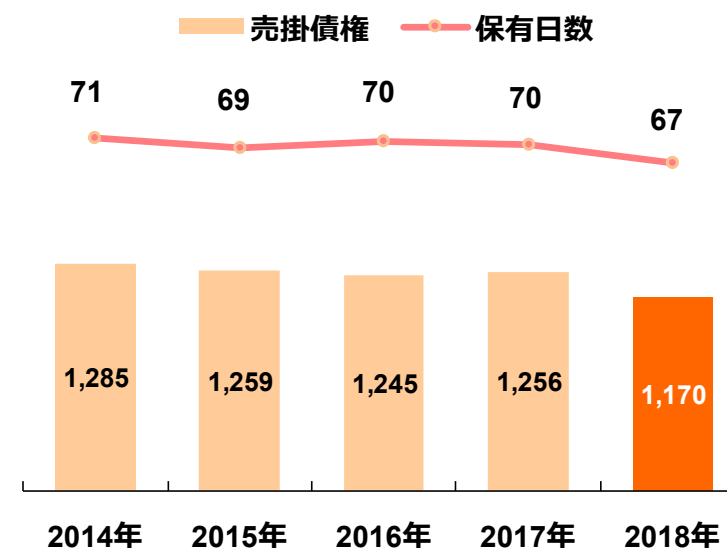
■ 特別損失

	2017年		2018年		増減	
	4Q	年間	4Q	年間	4Q	年間
固定資産除売却損	1	9	1	3	Δ0	Δ6
減損損失	2	10	-	0	Δ2	Δ10
災害による損失	-	-	0	1	+0	+1
投資有価証券評価損	-	0	1	2	+1	+2
退職特別加算金	-	1	-	-	-	Δ1
拠点再編費用	-	0	-	1	-	+1
その他	0	0	0	0	+0	+0
合計	3	21	2	6	Δ2	Δ14

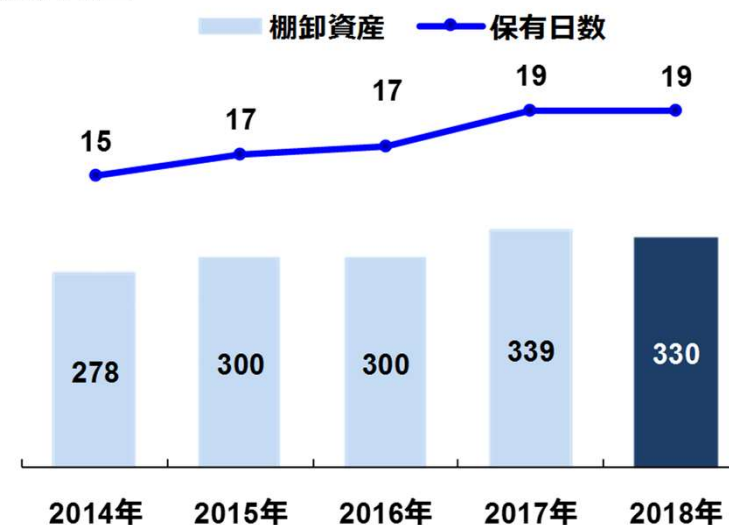
【参考】貸借対照表

	2017年 12月	2018年 12月	増減
資産	5,108	4,988	△120
流動資産	3,975	3,872	△103
金融資産	1,370	1,356	△14
売掛債権	1,256	1,170	△86
棚卸資産	339	330	△9
その他	1,010	1,016	+6
固定資産	1,133	1,115	△18
有形固定資産	751	720	△31
無形固定資産	55	53	△2
投資その他	328	343	+15
負債	2,133	1,952	△181
流動負債	1,574	1,299	△275
買掛債務	1,009	758	△251
その他	565	541	△24
固定負債	559	653	+94
純資産	2,975	3,036	+60
株主資本	3,011	3,142	+130
(自己株式)	△319	△319	△0
その他の包括利益累計額	△41	△111	△70
非支配株主持分	5	5	+1
株主資本比率	58%	61%	+3%

■売掛債権 (単位：億円)



■棚卸資産

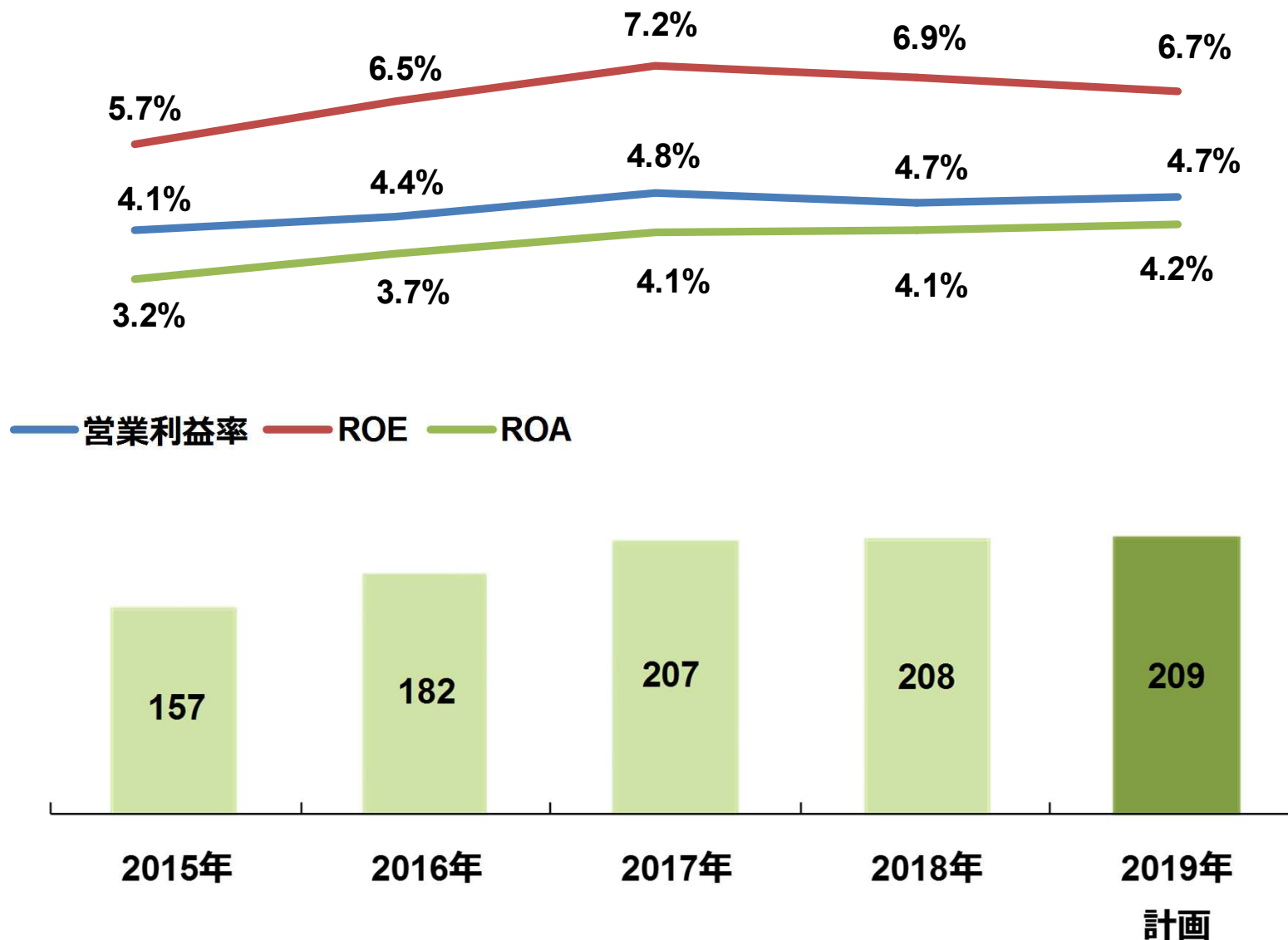


【参考】財務指標推移 営業利益率／ROA／ROE



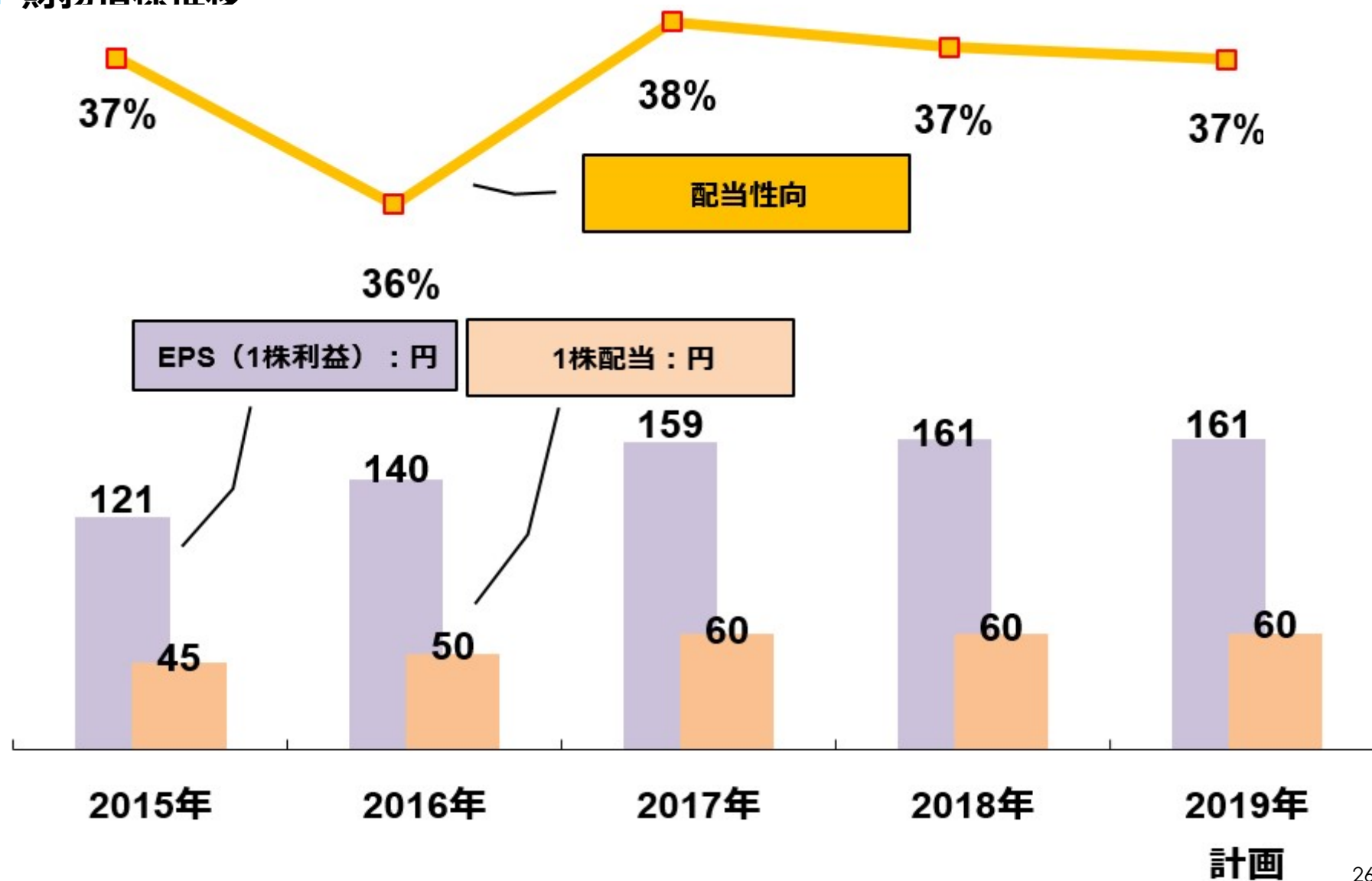
■ 財務指標推移

(単位：億円)



【参考】財務指標推移 配当性向／EPS／配当

■ 財務指標推移

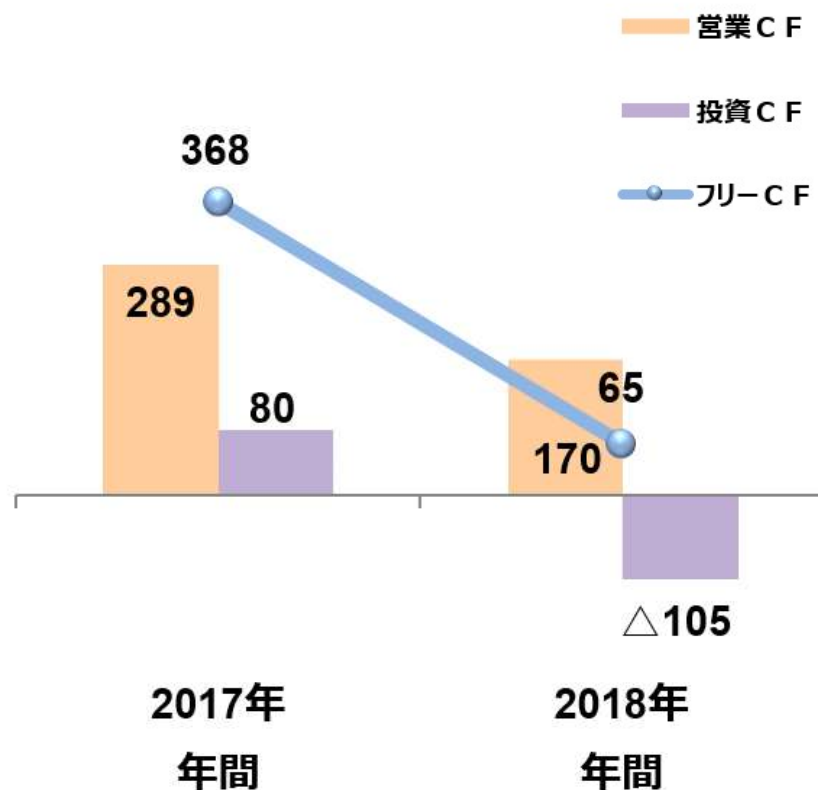


【参考】キャッシュ・フロー/設備投資・減価償却



(単位：億円)

■キャッシュ・フロー



■設備投資

年	年間
2017年	137
2018年	107
2019年	208

■減価償却

年	年間
2017年	143
2018年	133
2019年	131

Canon

キヤノンマーケティングジャパングループ